

平成30年度長野県長野吉田高等学校 学校評価表

13 長野吉田高等学校

<p>目指す学校像</p>	<p style="text-align: center;">中期的教育目標</p> <p>「文武両道」の伝統を受け継ぎ、人権尊重の精神を基礎とし、創造性と自発性を発揮し、生徒一人ひとりが自己実現できる学校を目指す。また、地域から期待される進学校であることをふまえ、生徒への支援体制をより整備し、生徒一人ひとりの進路実現を目指す。</p> <p>創立百年を超える歴史をふまえ、地域社会から求められている使命を自覚し、生徒個々の多様な能力を最大限に伸長させ、生徒が希望する進路を実現できるよう以下のことを目標とする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>1 確かな学力の向上と進路実現</b></p> <p>① 幅広い知識と教養を身につけた優れた人格を育成する。</p> <p>② 基礎・基本の確実な定着と進路実現のための学力向上を図る。とりわけ現役大学進学率、国公立大学・難関私立大学への合格率の向上を図る。</p> <p>③ 「文武両道」を奨励し、調和のとれた人格を陶冶し、キャリア教育を通して広く社会において活躍できる人材を育成する。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>2 基本的生活習慣の確立</b></p> <p>① 集団生活（学校）の規律を遵守し、社会規範意識の向上を図る。</p> <p>② 共生、思いやりの心を育てる。</p> <p>③ 挨拶、清掃、整理・整頓、時間厳守等の指導の徹底を図る。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>3 自主的精神の高揚と自主活動の充実</b></p> <p>① 学校行事を有効に活用し、生徒の自主的な活動を促すとともに健全な人格の育成を図る。</p> <p>② 健康で健全な体力及び気力を有し、責任をもって行動できる人</p> </div> </div>
---------------	---

評価 A…十分 B…おおむねよい C…不十分

今年度の重点目標	評価の観点	成果と課題	評価 (%)			改善策・向上策
			A	B	C	
1 生徒が自主的に目標をもって学び、意欲的に進路実現を目指す学習指導・進路指導を行う。	① 本校生徒全体の学力向上を目指し、生徒自身が具体的な学習目標をもつことができたか。	学習面では、授業や課題の工夫とともに、今年度から導入された電子黒板を授業や補習で積極的に利用し学習事項の着実な定着を目指した指導が重ねられた。ICT指導員の協力も得ながら教材研究にも力を入れることができた。進路指導面では、進路通信や学年通信を通じての日常の指導に加え、学年ごとに進路講演会・キャリア学習・オープンキャンパスへの参加・大学模擬授業等、3年間を通じた計画に基づいて各学年の発達段階に応じた指導が展開された。		○		引きつづき、教科・学年・進路係を中心に各取り組みの充実を図る。学校生活全般について生徒、保護者、教職員の理解と協力が不可欠である。
	② 夏期講習・学習合宿・補習・個別指導・小論文指導等を充実させ、生徒個々の希望や実情に応じた進路指導を行うことができたか。	夏期学習合宿は全学年で実施し、1学年244名、2学年112名、3学年153名の参加。土曜補習であるサタデーセミナーは、1・2年生で教科学習を中心に実施。校外模試は、受験学力の向上、定点把握と指導検証のため実施した。模試欠欠については自宅受験をやめ、学校での追試受験を行うことで意識を高めた。3学年は放課後補習・夏期講座・夏期休業中の補習を実施。2学年は3学期より朝補習を実施。記述対策として、小論文指導として講演会および模試を実施した。		○		各学年とも生徒の実情に合うように計画を進め、さらなる成果の向上を目指していきたい。長期休業中の学習合宿や補習については希望者が参加しやすい体制づくりを実現したい。また、今年度同様に進路報告会等の総括を元に各教科で検証し、指導を深めたい。
	③ 生徒が自発的に家庭学習時間を増やすよう、学校全体で取り組めたか。	今年度も全学年で生徒にスケジュール帳を持たせ、時間管理やスケジュール管理に活用。スタディーサポートを定期的に実施し、生徒の実態把握に努めた。各学年で家庭学習時間の調査を行った。定期的にスケジュール帳を回収し家庭学習時間の点検を行った。調査結果については学年通信を通じて知らせ、家庭学習に対する取り組みを振り返らせ、意識を高めた。班活動に忙殺され、学習時間が十分に確保出来ない生徒もいる。年度末になり家庭学習時間が増える傾向にある。		○		引きつづき継続的な取り組みができるように、また、主体的に自己管理できるように指導する。さらに、下校時刻の徹底や班活動との調和、スマートフォンの使用等についても課題とする。
	④ 高大接続改革をふまえ、共通テストや探究学習への対応を進めることができたか。	進路係を核に、研究会への参加を呼びかけると共に、校内研修会を設定し、情報の収集と課題の確認を行った。また、探究係を分掌に位置づけ、外部講師による模擬授業の実施や公開授業に取り組んだ。長野県立大学等とも連携しながら対応している。2月に1学年では学級・学年で発表の場を設けた。	○			高大接続改革への対応を各分掌と協力しながら指導計画の立案をし実施する。また、継続的に職員研修会等を実施し、情勢の分析を行っていく。
2 命と人権を大事にし、いじめや体罰のない学校生活を通して、共に生きる心の育成や社会的規範意識を高揚させる生徒指導を行う。	① 節度ある身だしなみに心がけ、明るい挨拶、身の回りの整理・整頓、時間の厳守、公共の場におけるマナーを実践することができる人格を育成することができたか。	校内ではあちこちでさわやかな挨拶が交わされており、大多数の生徒は良好である。整理整頓については教室前のロッカーの上も片付けが出来るようになってきている。個人の勉強道具も多く、使用できるロッカーも手狭なために、日頃から私物の管理やこまめな整理整頓を継続して指導していきたい。教科の課題の提出期限が守れない生徒や、遅刻者への指導は継続して取り組む必要がある。自転車安全利用モデル校に指定された。自転車利用のマナー向上についても引き続き指導していく必要がある。		○		様々な機会を通じて公共の場におけるマナーや規範意識の向上を目指して指導を継続したい。遅刻者への指導も効果的な方法を工夫しながら継続指導に当たりたい。
	② 生活環境等の整備（清掃活動の徹底・ゴミ削減・節電等）に、生徒が主体的に取り組めるようにすることができたか。	各ホームルームにおいて継続した指導を行ってきた。また、生徒会整美委員と担当職員が協力して取り組んでいることもあり、ゴミの分別状況は非常に良くなってきている。ゴミの削減にも力を入れていきたい。来校者からの清掃状況に対する指摘も少なくなっているが、トイレや班室まわりは改善の取り組みが必要だ。生徒会執行部による学校周辺のゴミ拾いや一部の班による雪かきも行われているが、全校で校舎外目を向けた環境整備・清掃活動にも取り組む必要がある。		○		学習環境、生活環境の整備という観点からの学校美化の重要性をふまえ、生徒一人一人が責任を持って取り組めるよう指導していきたい。
3 生徒会活動、クラブ活動に意欲的に取り組むように生徒を育て、支援する。	① 生徒会活動への生徒の取り組みを指導・支援し、一人ひとりの責任感を育み、主体的に活動に関わっていく姿勢を育てることができたか。	生徒会係や委員会顧問と生徒会役員や咲峰祭スタッフが密に連絡をとることで、各種生徒会活動を主体的に実施させることができた。吉田地区への広報活動やボランティア活動にも取り組めた。クラス担任としては、各クラスの生徒にそれぞれ役割を与え、責任を持って活動にあたるよう促した。3学年では、生徒会活動にリーダーとして意欲的・主体的に取り組む文化祭等の行事を成功に導くとともに、活動を通して精神面で成長することができた。後期になり、生徒会活動を引き継いだ2学年では、新たなアイデアのもとに積極的に取り組みを展開している。1学年では、文化祭などを通じて生徒会活動に責任を持って取り組む姿が見られ、後期の生徒会役員選挙にも積極的に関わっていた。	○			生徒自らが、より主体的に新たな活動や方法を創意工夫できるように、指導や支援の方法を模索していきたい。
	② クラブ活動においては、活動目標を掲げそれを達成できるような指導を行うことができたか。また、指導の過程においては、生徒本人、保護者、担任と連絡を密にして指導にあたることができたか。	それぞれの目標達成に向けて最大限の効果が上がるよう、各クラブ顧問が工夫しながら指導にあたった。運動系のクラブでは、各班とも活発な活動が展開された。文化系のクラブでは、総文祭を通して外部での発表や交流の場が増えたこともあり、地域との連携を意識した活動が活発に行われた。このような各クラブの活動や活躍の様子は、本校公式ホームページや体験入学・広報等を通じて、随時お知らせしてきた。業務の多忙化等によりクラブ指導に時間を費やせなかつたり、保護者や担任との連携が疎かになったりすることもあり、今後の課題である。		○		バランスのとれたクラブ活動と学習活動となるように、顧問およびHR担任は、保護者と連絡を取り合いながら、引き続き指導していきたい。
4 将来の生き方、働き方を考え、選択・決定する上で必要な基本的な能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達を促す。	① どのように生きていくかについて、長期的展望に立って考えさせることができたか。	各学年とも、将来の生き方を考えることができるように、様々な学年行事やキャリア学習、外部講師による具体的な話を聞く機会などを設定してきた。また、学年通信においては、高校卒業後の進路選択に向けて様々な情報提供をするとともに自分の生き方を考える指導を行ってきた。1学年では、LHRで進路ノート等を活用しながら長期的な展望の中、今あるべき姿を真摯に見つめられるように指導してきた。2学年では台湾への修学旅行を通して視野を広げる機会を得た。3学年では学校生活で直面した課題や困難を乗り越えることで人間的な成長ができた。		○		各学年のキャリア学習を充実させ、低学年時から生徒個々の興味や関心に気づかせ、将来の進学や就職につながる指導を継続していく。1学年で取り組みが始まった探求学習においても将来的な展望に結びつけるように模索していきたい。
	② 就労体験等の機会の活用を図りながら、望ましい勤労観、職業観を育成できたか。	主な機会としてははじめて挙げると実施した。社会人講話(1年9月)、大学生+事業所見学(1年10月)、就業体験等(本校独自企画：吉田小学校8名、保育園幼稚園17名、長野中央病院12名； 外部企画：看護師体験28名、高校生グローバルスクール2名)	○			次年度以降も継続して実施するとともに、充実を図りたい。
	③ 自分が将来どのように社会に参画していくかを考えさせることができたか。	1学年は9月に本校OBを含む社会人による職業講話(全9講座)を行い、10月には県内企業の見学を7コースに分かれ実施した。講話や企業見学から実際に働くことのイメージを持つことができ、その感想をまとめ、講座内容の共有を図った。創立110周年の記念式典で宇宙飛行士の油井亀美也氏の講演を聴く機会に恵まれ多くの感動と刺激を得た。		○		文理選択に合わせ、学問適性だけでなく職業適性についても考えさせる指導をしていく。また、社会人として必要な基礎力や適応力を高校生活を通じて指導していく必要がある。